

**製品名: hCAP-G ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11920**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	115kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NCAPG NCAPG; CAPG; NYMEL3; Condensin complex subunit 3; Chromosome-associated protein G;
別名	Condensin subunit CAP-G; hCAP-G; Melanoma antigen NY-MEL-3; Non-SMC condensin I complex subunit G; XCAP-G homolog
遺伝子 ID	64151.0
SwissProt ID	Q9BPX3
免疫原	抗血清はヒト NCAPG 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 951-1000

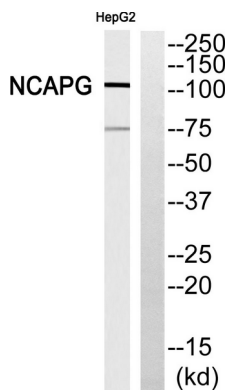
**背景**

この遺伝子は、有糸分裂および減数分裂中の染色体の凝縮と安定化を担うコンデンシン複合体のサブユニットをコードしている。コードされているタンパク質のリン酸化は、コンデンシン複合体を活性化する。この遺伝子の擬似遺伝子は、8番染色体と15番染色体に存在する。選択的スプライシングによって、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2012年8月]機能: 間期クロマチンを有糸分裂様の凝縮染色体に変換するために必要な複合体であるコンデンシン複合体の調節サブユニット。コンデンシン複合体は、I型トポイソメラーゼの存在下では弛緩DNAに正のスーパーコイルを導入し、II型トポイソメラーゼの存在下では切断DNAを正のノット型に変換すると考えられている。、その他: 一部の癌細胞株および腫瘍細胞で過剰発現している。、PTM: CDC2によってリン酸化される。コンデンシン複合体は、NCAPD2およびNCAPHサブユニットと同様に、リン酸化によって活性化され、染色体凝縮に必須である。、配列注意: フレームの選択が誤っている。、類似性: CND3 (コンデンシンサブユニット3) ファミリーに属する。、類似性: HEAT リピートを10回含む。、細胞内局在: 間期細胞では、コンデンシン複合体の大部分は細胞質に存在し、一部はクロマチンに結合している。しかし、複合体の一部は間期細胞でも染色体フォーカスに結合したままである。有糸分裂中は、コンデンシン複合体の大部分はクロマチンに結合している。前期の開始時に、複合体の調節サブユニットがCDC2によってリン酸化され、コンデンシンが染色体腕に結合して染色体凝縮が起こる。染色体からの解離は、後期終期に観察される。、サブユニット: コンデンシン複合体の構成要素で、SMC2およびSMC4ヘテロダイマー、および複合体を制御すると考えられる3つの非SMCサブユニット (NCAPH/BRRN1、NCAPD2/CAPD2、およびNCAPG) が含まれる。、組織特異性: 精巣で高度に発現する。、

## 研究分野

-

## 画像データ



NCAPG 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは NCAPG ペプチドでブロッキングされている。